



平成25年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 アマナホールディングス
コード番号 2402 URL <http://amana.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 進藤 博信

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部門担当

(氏名) 田中 和人

TEL 03-3740-4011

四半期報告書提出予定日 平成25年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第2四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第2四半期	8,853	7.7	△45	—	△94	—	△157	—
24年12月期第2四半期	8,223	32.8	200	31.2	158	49.1	32	—

(注) 包括利益 25年12月期第2四半期 △172百万円 (—%) 24年12月期第2四半期 64百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第2四半期	△31.64	—
24年12月期第2四半期	6.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年12月期第2四半期	12,733	2,949	22.5
24年12月期	11,739	3,172	26.2

(参考) 自己資本 25年12月期第2四半期 2,859百万円 24年12月期 3,072百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	—	—	15.00	15.00
25年12月期	—	—	—	—	—
25年12月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,200	9.8	200	7.4	80	△35.2	5	27.8	1.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年12月期2Q	5,408,000 株	24年12月期	5,408,000 株
25年12月期2Q	435,217 株	24年12月期	435,217 株
25年12月期2Q	4,972,783 株	24年12月期2Q	4,972,783 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。上記予想に関する事項につきましては、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(6) セグメント情報等	12
(7) 重要な後発事象	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループは、写真、動画、CGなど視覚的な表現で伝達することをビジュアル・コミュニケーションと定義し、ビジュアルを活用・消費するマーケットである広告・出版・エンタテインメント業界を中心に事業を展開しております。さらに、

- ・プロフェッショナルマーケット：広告業界企業（広告代理店、広告制作会社、出版社等）
- ・コーポレートマーケット：広告業界以外の一般企業
- ・コンシューママーケット：ビジュアルを利用、楽しむ個人やグループ

と捉え、マーケットに応じたビジュアル・コミュニケーションの素材やソリューションを提供しております。

当第2四半期連結累計期間における国内経済は、経済政策や金融政策への期待感から円安、株価の上昇が進行しました。これに伴い、輸出企業を中心に業績の改善が見込まれ、個人消費も回復傾向にあります。世界経済の先行きの不確実性が大きく、先行き不透明な状況は続いております。

当社グループが事業を展開するビジュアル・コミュニケーションマーケットにおいては、メディアやデバイスの多様化が、マーケットを大きく変えようとしています。

このようなメディア変革期において、当社グループでは、中長期的な観点から経営計画に取り組み、中期経営計画では2つの基本方針と3つの戦略の柱を策定しました。中期経営計画のスタートとなる、当第2四半期連結累計期間においては、広告ビジュアル制作事業、及び広告の企画制作事業の営業リソースを一元化し、企画・プロデュースの強化を図る組織再編を行いました。これに伴い、第1四半期連結累計期間より両事業はビジュアル・コミュニケーション事業として、ひとつの報告セグメントに区分しております。

なお、他の報告セグメントにつきましては、名称を以下のとおりに変更しております。

旧報告セグメントの名称	新報告セグメントの名称	中核会社 (連結子会社数)	主要な商品・サービス
ストックフォト販売事業	ストックフォト事業	株式会社アマナイメージズ (他連結子会社4社)	ストックフォト(写真使用权) 動画・3Dモデリング・音源 撮影・画像制作(パノウォーク)サービス 素材のコンテンツ化
広告ビジュアル制作事業	ビジュアル・コミュニケーション事業	[企画・プロデュース] 株式会社アマナ (他連結子会社10社)	TVCM ウェブ(広告コンテンツ) グラフィック SP(販売促進ツール) 電子カタログ 静止画・動画の撮影
広告の企画制作事業		[制作] 株式会社アマナクリエイティブ (他連結子会社7社)	CG(デジタル画像処理) CGI(フルデジタルによる画像制作)
エンタテインメント映像制作事業	エンタテインメント映像事業	株式会社ポリゴン・ピクチュアズ (他連結子会社2社)	CG映像制作 ライセンス管理 など

当第2四半期連結累計期間におけるストックフォト事業は、コーポレートマーケットの開拓、及びデジタルメディアに対応するコンテンツ素材提供サービスの拡販に注力しました。ビジュアル・コミュニケーション事業においては、マーケット別の注力商材による営業活動を積極的に行う一方、制作部門においては、商材・サービスの競争力強化に向けた取り組みを推し進めました。また、エンタテインメント映像事業においては、コスト面及び技術面の競争力強化のための基盤を整えました。

当第2四半期連結累計期間における売上高は、前年同四半期に比べ630百万円(7.7%)増収となる8,853百万円となりました。これは、ビジュアル・コミュニケーション事業の売上高が堅調に推移したこと、及び連結子会社の増加によるものです。

売上原価については、売上高増に伴う外注費のほか連結子会社の増加に伴うコスト増により、前年同四半期に比べ303百万円(6.0%)増加しました。販売費及び一般管理費については、連結

子会社の増加に伴うコスト増のほか、戦略的な投資による人件費や活動費等の増加により、前年同四半期に比べ573百万円（19.1%）増加しました。

以上の結果、営業損失は45百万円（前年同四半期は営業利益200百万円）、経常損失は94百万円（前年同四半期は経常利益158百万円）となりました。さらに、海岸スタジオ改装工事に伴う固定資産除却損の特別損失36百万円を計上し、四半期純損失は157百万円（前年同四半期は四半期純利益32百万円）となりました。

連結業績は次のとおりです。

売上高	8,853 百万円	前年同四半期比 7.7%増加
営業損失	45	—
経常損失	94	—
四半期純損失	157	—

当第2四半期連結累計期間における報告セグメントの業績は次のとおりです。

（ストックフォト事業）

ストックフォト事業は、国内外で契約するフォトグラファーやイラストレーターによって制作された著作物を提供するサービスを主として行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、コーポレートマーケットを中心とした取引会社や、取引クリエイターの新規・休眠開拓など積極的な営業活動を行いました。また、教育マーケットをターゲットとする素材のコンテンツ化ビジネスは順調にスタートしました。

ストックフォト販売においては、RM（ライツマネージド：使用状況を管理する写真使用権）を中心に販売価格・点数ともに低下傾向は続いており、前年同四半期に比べ減収となりました。このような状況のなか、ストックフォト以外の商材・サービスの積極的な営業活動が奏功し、前年同四半期に比べ増収となりました。なかでも、画像制作サービス「パノウォーク」は静止画から動画まで対応する技術と品質、価格が受け入れられ堅調に推移しました。また、デジタルメディアに対応するクリエイター向けソリューションアイテムのフォント・3Dや素材のコンテンツ化サービスなどにより売上高は増加しましたが、ストックフォト販売の低迷が影響し、当事業の売上高は前年同四半期に比べ微減となりました。

売上原価については、売上高減少に伴い写真使用料は減少しましたが、撮影サービス・パノウォーク等の外注費や素材のコンテンツ化サービスのコストが増加し、原価率が上昇しました。販売費及び一般管理費については、連結子会社の増加により前年同四半期に比べコスト増となりましたが、Eコマース促進などによる効率化を進め、コストの抑制に努めました。

以上の結果、業績は次のとおりになりました。

売上高	1,617 百万円	前年同四半期比 0.9%減少
セグメント利益	67	” 26.5%減少

（ビジュアル・コミュニケーション事業）

ビジュアル・コミュニケーション事業は、ビジュアル活用のソリューション及びコミュニケーションに関するサービスを提供しております。当事業では、TVCM、ウェブ、SP（セールスプロモーション）等のクロスメディア展開を行う広告コンテンツの企画・制作、静止画・動画撮影やCG（2D/3D）制作など多様化するビジュアルの制作・活用のニーズに応じております。スマートデバイスの普及拡大に伴い、新しいソリューションの開発などマーケットは拡大傾向にありますが競争も激化しております。

当第2四半期連結累計期間については、ウェブ・TVCM・グラフィック等の企画制作系サービスは戦略に沿った活動が奏功し、売上高は前年同四半期に比べ大きく伸びました。また、当社グループが重点商材と位置づける動画・CGI・電子カタログ等を中心にコーポレートマーケット開拓を推進し、取引社数の増加と取引企業内のクロス案件受託に注力した営業活動を行いました。この結果、家電・精密機器業界、食品・飲料業界等との取引が堅調となり、売上高は前年同四半期に比べ大幅に増加しました。

売上原価については、TVCM・動画（映像制作）等企画系の売上高が伸張したことに伴い外注費が増加しました。販売費及び一般管理費については、営業人員増強による人件費の増加、活動を本格化した中国子会社など連結子会社の増加のほか、電子カタログ等の商材・サービス開発

や販売促進活動等のコストが増加しました。

以上の結果、業績は次のとおりになりました。

売上高	6,227 百万円	前年同四半期比 19.6%増加
セグメント損失	75	—

(エンタテインメント映像事業)

エンタテインメント映像事業は、TV・映画・ビデオ映像、ゲーム用映像、遊技機用映像、展示映像などのCG映像を制作しております。このほか、CGで制作した自社企画のキャラクター・ライセンス事業、及び国内外の優秀な映像制作アーティストのプロデュース業務などを手掛けております。

当第2四半期連結累計期間においては、これまでのCG映像制作を進化させる事業の開発に着手し、国内TVシリーズ製作委員会への参画、玩具メーカーとの連携によるキャラクターグッズ開発などを推進しました。売上高については、国内の遊技機・TV向け映像制作など、前年同四半期に比べ大幅な受注増となり、国内売上は堅調に推移しました。一方、海外売上高については、大型TVシリーズ案件が終了したことにより前年同四半期に比べ減少し、当事業としては減収となりました。

売上原価については、海外大型TVシリーズの制作コストが抑制され原価率は改善しました。販売費及び一般管理費については、海外拠点の制作体制立ち上げに伴うコスト、及び採用関連費用が増加しました。

以上の結果、業績は次のとおりになりました。

売上高	1,077 百万円	前年同四半期比 26.3%減少
セグメント利益	36	〃 71.7%減少

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計残高は12,733百万円（前連結会計年度末比994百万円増）となりました。これは、主として売上高増に伴う売上債権297百万円、及びスタジオ改装工事等に伴う有形固定資産270百万円が増加したことによります。

②負債の状況

当第2四半期連結会計期間末の負債合計残高は9,784百万円（前連結会計年度末比1,217百万円増）となりました。これは、主として売上高増に伴う仕入債務277百万円、及び長期借入金660百万円が増加したことによります。

③純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計残高は2,949百万円（前連結会計年度末比223百万円減）となりました。これは、主として四半期純損失157百万円、及び配当金74百万円を計上したことによります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、直近の実績及び外部環境等を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、平成25年2月15日に公表しました通期の連結業績予想を修正いたしました。なお、当該予想数値の修正に関する事項は、本日（平成25年8月8日）公表の「平成25年12月期第2四半期連結業績予想と実績との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,378,696	1,662,896
受取手形及び売掛金	3,886,931	4,184,175
たな卸資産	358,601	402,721
繰延税金資産	145,516	152,767
その他	389,117	408,795
貸倒引当金	△50,274	△49,293
流動資産合計	6,108,588	6,762,062
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,745,251	1,802,311
リース資産（純額）	230,573	376,431
建設仮勘定	42,949	1,000
その他（純額）	507,799	617,644
有形固定資産合計	2,526,573	2,797,387
無形固定資産		
ソフトウェア	745,878	701,544
のれん	1,120,690	1,041,953
リース資産	9,817	9,449
その他	462,344	537,976
無形固定資産合計	2,338,730	2,290,923
投資その他の資産		
投資有価証券	107,403	150,830
長期貸付金	15,663	55,194
差入保証金	502,216	537,724
繰延税金資産	2,341	2,337
その他	134,118	135,252
貸倒引当金	△3,708	△3,685
投資その他の資産合計	758,035	877,653
固定資産合計	5,623,339	5,965,964
繰延資産		
開業費	6,943	5,554
その他	343	97
繰延資産合計	7,286	5,652
資産合計	11,739,214	12,733,679

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,142,913	1,420,507
短期借入金	700,000	500,000
1年内返済予定の長期借入金	1,498,449	1,644,915
未払法人税等	71,107	77,348
未払金	463,405	517,484
リース債務	84,084	124,476
繰延税金負債	2,905	3,027
賞与引当金	154,465	135,819
受注損失引当金	7,031	16,248
その他	285,322	432,751
流動負債合計	4,409,685	4,872,579
固定負債		
長期借入金	3,552,240	4,212,715
資産除去債務	320,196	296,880
リース債務	175,469	296,890
繰延税金負債	68,670	57,901
その他	40,106	47,342
固定負債合計	4,156,682	4,911,730
負債合計	8,566,367	9,784,309
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,097,146	1,097,146
資本剰余金	1,334,988	1,334,988
利益剰余金	939,993	708,067
自己株式	△304,150	△304,150
株主資本合計	3,067,977	2,836,050
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	△3,988	—
為替換算調整勘定	8,448	23,651
その他の包括利益累計額合計	4,459	23,651
少数株主持分	100,408	89,667
純資産合計	3,172,846	2,949,369
負債純資産合計	11,739,214	12,733,679

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
売上高	8,223,140	8,853,979
売上原価	5,017,546	5,320,620
売上総利益	3,205,593	3,533,359
販売費及び一般管理費	3,005,180	3,578,745
営業利益又は営業損失(△)	200,412	△45,386
営業外収益		
受取利息	381	1,618
負ののれん償却額	3,293	—
持分法による投資利益	2,612	—
為替差益	471	3,409
受取賃貸料	2,351	—
貸倒引当金戻入額	3,400	1,004
還付消費税等	—	6,680
その他	12,549	6,514
営業外収益合計	25,060	19,227
営業外費用		
支払利息	54,323	60,784
持分法による投資損失	—	1,572
その他	12,633	6,007
営業外費用合計	66,956	68,364
経常利益又は経常損失(△)	158,515	△94,523
特別損失		
固定資産除却損	17,728	36,665
特別損失合計	17,728	36,665
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	140,787	△131,188
法人税、住民税及び事業税	58,291	77,402
法人税等調整額	18,089	△17,908
法人税等合計	76,381	59,494
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	64,405	△190,683
少数株主利益又は少数株主損失(△)	32,286	△33,348
四半期純利益又は四半期純損失(△)	32,118	△157,334

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	64,405	△190,683
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	△254	3,988
為替換算調整勘定	7	14,660
その他の包括利益合計	△246	18,648
四半期包括利益	64,159	△172,034
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	31,948	△138,432
少数株主に係る四半期包括利益	32,211	△33,602

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	140,787	△131,188
減価償却費	371,617	369,493
のれん償却額	59,624	86,824
負ののれん償却額	△3,293	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△8,419	△1,004
賞与引当金の増減額(△は減少)	△40,106	△18,645
受注損失引当金の増減額(△は減少)	△65,137	9,216
受取利息及び受取配当金	△381	△2,493
支払利息	54,323	60,784
為替差損益(△は益)	141	△11,163
持分法による投資損益(△は益)	△2,612	1,572
固定資産除売却損益(△は益)	17,728	36,665
売上債権の増減額(△は増加)	△242,277	△170,708
たな卸資産の増減額(△は増加)	263,797	△44,120
その他の資産の増減額(△は増加)	44,998	11,655
仕入債務の増減額(△は減少)	178,255	277,457
その他の負債の増減額(△は減少)	126,746	117,519
小計	895,792	591,863
利息及び配当金の受取額	381	483
利息の支払額	△54,750	△59,070
法人税等の支払額	△205,743	△69,186
営業活動によるキャッシュ・フロー	635,679	464,090
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△377,865	△339,641
無形固定資産の取得による支出	△254,673	△223,046
関係会社株式の取得による支出	△46,170	△76,000
投資有価証券の取得による支出	△30,000	△5,000
定期預金の預入による支出	—	△601
貸付けによる支出	△20,000	△94,882
貸付金の回収による収入	4,513	7,094
差入保証金の差入による支出	△289	△41,928
差入保証金の回収による収入	150	3,636
保険積立金の解約による収入	—	40,506
その他	—	△2,577
投資活動によるキャッシュ・フロー	△724,334	△732,440

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,500,000	3,600,000
短期借入金の返済による支出	△1,500,000	△3,800,000
長期借入れによる収入	1,300,000	1,700,000
長期借入金の返済による支出	△883,196	△893,059
社債の償還による支出	△5,000	△5,000
少数株主からの払込みによる収入	10,000	49,197
リース債務の返済による支出	△34,165	△53,124
配当金の支払額	△74,591	△74,591
財務活動によるキャッシュ・フロー	313,046	523,422
現金及び現金同等物に係る換算差額	46	28,525
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	224,438	283,597
現金及び現金同等物の期首残高	1,574,268	1,373,738
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,798,707	1,657,336

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間（自平成24年1月1日 至平成24年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ストック フォト事業	ビジュアル・ コミュニケーション事業	エンタテイン メント 映像事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,558,628	5,184,892	1,461,333	8,204,854	—	18,285	8,223,140
セグメント間の内部 売上高又は振替高	74,221	22,500	150	96,872	—	(96,872)	—
計	1,632,849	5,207,393	1,461,483	8,301,726	—	(78,586)	8,223,140
セグメント利益又は損 失 (△)	91,471	△28,781	127,540	190,229	△6,284	16,466	200,412

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業であり、従来の事業に属さない企画・制作・販売事業を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失の調整額16,466千円には、セグメント間取引消去191千円、のれんの償却額及び各報告セグメントに配分していない全社費用の合計16,275千円が含まれております。なお、全社費用は、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成25年1月1日 至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ストック フォト事業	ビジュアル・ コミュニケーション事業	エンタテイン メント 映像事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,541,594	6,199,210	1,066,130	8,806,935	4,306	42,738	8,853,979
セグメント間の内部 売上高又は振替高	76,148	28,182	11,500	115,830	—	(115,830)	—
計	1,617,742	6,227,392	1,077,630	8,922,766	4,306	(73,092)	8,853,979
セグメント利益又は損 失 (△)	67,257	△75,035	36,110	28,332	△66,279	(7,438)	△45,386

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業であり、従来の事業に属さない企画・制作・販売事業を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失の調整額△7,438千円には、のれんの償却額及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。なお、全社費用は、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、広告ビジュアル制作事業、及び、広告の企画制作事業の営業体制を一元化し、営業力強化を図るため組織再編を行いました。

これに伴い、上記2事業はひとつの報告セグメントとして区分しております。また、その他の報告セグメントについては名称を変更しましたが、事業を構成する内容については継続しております。

報告セグメントの新旧は次のとおりです。

旧 報告セグメント	新 報告セグメント	事業の内容
ストックフォト販売事業	ストックフォト事業	ストックフォト販売 ビジュアル素材のコンテンツ化事業
広告ビジュアル制作事業	ビジュアル・コミュニケーション 事業	ビジュアル・コミュニケーション 事業（企画/プロデュース）
広告の企画制作事業		ビジュアル・コミュニケーション 事業（制作）
エンタテインメント映像制作事業	エンタテインメント映像事業	エンタテインメント映像制作 ライセンス事業

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。